

FIND NEW WAYS～ICT を活用した愛される大学づくり～

【議題認識】

少子化に伴い、各大学では「学生募集」が大きな課題となっている。日本における大学入学がユニバーサル段階に入り、進学率が 50 パーセントを超える状況となった今、各大学はそれぞれの魅力を PR して必死に学生募集を行っている。そこで本チームでは、厳しい環境の中、いかに多くの学生を集めることができるか、ICT を活用して新しい学生募集につながることに寄与できないか検討した。テーマを以下の通りに設定し、その解決策と具体化策について検討した。

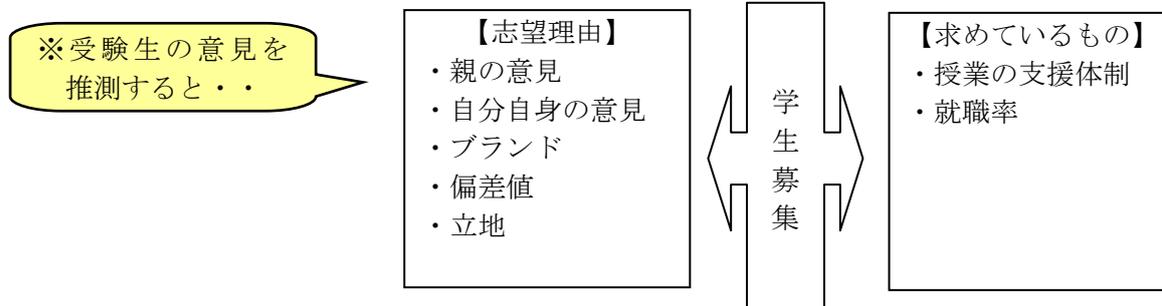
○テーマ

いかに魅力的な大学として多くの受験生を呼び込めるか！

○テーマ選定背景

少子化が進む中、多くの大学で学生募集において危機に面している。「大学」が受験生から見てもっと魅力的な場所になるにはどうしたらよいか、また、受験生を確保していくためにはどうしたらよいか、ICT を活用した実現策を考えた。

- 1 受験生は大学をどのような理由で選ぶのか、また入学後、実際に大学生となった時、どのような大学像を求めているのだろうか。



- 2 メンバーの大学進学時における決定要素

- ・ 実家から通える大学
- ・ ネームバリュー
- ・ 立地がよかった
- ・ オープンキャンパス時の「学生相談コーナー」の充実
- ・ 講義を欠席した時に、講義内容を学校のポータルサイトに載せてくれる親切さ、など。

上記の討議を通して、大学の魅力をアピールする方法として ICT を活用し、より積極的な学生募集を行うことを考えた。その具体策として以下の 3 つを提案したい。

【解決策の提案】

① 受験対象者の拡充

18 歳人口は減少するが、大学数・学部学科数は増え、定員数も増加する。大学受験者層を「18 歳人口」から広げることで、少子化時代に対応する。  
さらに、ICT 技術を「補助・支援機能」として使い、社会人や高齢者、身体的障がい者など従来大学で学ぶことが難しかった方々がより学びやすい環境を整えることで、このような方々の受験意欲を高める。

そのために・・・

ICT を利用し、ハンディキャップを持った方でも、家にいながらにして講義を受けられるようにし、それを繰り返し見られるようにもする。

講義内容を文字に起こしたり、黒板を拡大したりなどの工夫を行う。



受験者は安心して進学を決め、講義を受けることができる！

※1：ただし、ここでいう ICT を活用して講義を家で受けられるというのは、あくまで大学に通うことが困難な方を対象にしており、限定的に使用するものとする。

## ② 合格者の不安解消のための ICT 活用

最近の高校生は、人間関係の構築が苦手である。そのため、入学後に友達ができるか不安を持っている人が多い。

また、合格者の中には大学生活のことを在學生に聞いてみたいという声もある。更に、近年たくさんの大学を受験する人が増えており、合格しても辞退する人が多い。

そのために・・・

合格者を対象とした、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を運用する。合格者は、在学中の学生及び大学と交流することができ、入学前と入学直後の不安を解消する。



- ・入学前から合格者や、教職員、また在學生との交流を行い、大学生活初期の段階より孤立感を感じさせない！
- ・SNS を通じてコミュニケーションをしていることで、既にその大学の一員であるという意識を持たせ、入学辞退者を減らすことができる！

## ◎プラスαとして・・・



各大学でできた SNS の交流から、他の大学の SNS とオフ会等を開催し、一大学内だけの交流とせず、同じ地域の他の大学との交流を図るような取組みを行う。

## ③ 大学の魅力を漏れなく広報

大学で行われている優秀な研究や、社会的に有意義な学生の活動があまり表に出ていない。また、それぞれの研究や活動を広報する術を知らない人も多くいる。

大学が持っている魅力を漏れなく広報することができれば、もっと学生は集まるのではないかと考えた。

そのために・・・

学内の研究成果や学生の活動をデータベースに集約し、情報の一元化を図る。リファレンス機能を付加することで、必要な情報をスピーディーに取捨選択することが可能。個人のアカウトを用いて容易に更新作業ができる。

さらに！

Wikipedia 等を利用して、全国の大学が一ヶ所に情報を集めれば、マスコミ業界の方々も情報を仕入れやすくなり、大学の魅力がより社会に広まる一つ的手段となる。

学生獲得に繋がる！

【まとめ】

ICT 技術を活用した新しいツール・仕事のやり方を開発することで、大学の学生募集力を高める。

目指すのは・・・

**私立大学業界全体の発展！！**